この人！　今の海上の生活　鈴木　敏明　さん

海上の森との関係は？　昭和 22 年、海上に生まれ海上で育った。伊勢湾台風の前年の山津波で山口地区に転居し、その後ずっと海上との二重生活をしている。枝分かれした親族にとっても山口と海上は心のふるさと。会えば昔の話ばかり。

海上はどのようなところですか？　江戸時代の先祖の墓と元屋敷のある生活地。最盛期 120 人余の鈴木のいたところ。当時の祭りは塚原･篠田･海上･四沢･広久手の地域を海上として考え、八幡社に献馬奉納。多度社馬上げ神事もあった所。

万博の思い出は？　約 20 年間万博問題の中心部にいた。自分の土地でもないのに海上を守ろうと一所懸命に活動する無数の市民の姿を毎日見た。彼らは今も健在。私達も 20 年前に海上町の自然と歴史を守る会を結成。その事務局長として会長副会長とともに県市との連絡や集会に明け暮れた。

古民家再建に関わったと聞きます。　その家は昔赤津から海上に移築した家と叔母から詳しく聞いた。解体処分方向のオーナーの同意を得て復元に動いた。山口若宮の棟梁･県･愛工大･地元･学生の協力でできた。海上を守ったという満足感はある。この家は海上を守った保護派、海上を離れた人、海上再生作業者の心の拠り所であってほしい。山口の長老達にはここに来て海上を楽しんでほしい。随分心配をかけた。

現状をどう考える？　海上の人間は遠慮することなく海上を発信すべきである。海上代表を名乗る組織は数多くあるが、海上の人間が代表する組織は上記以外に一つもない。地元のひとが寄りつき易い海上も考えていきたい。海上とは海上で生活する住民が生み出す暮らしぶりのことである。我々は原点に忠実に祖霊とともに生きるべきである。

プロフィール　海上生まれの海上育ち。本来の海上の姿を守るべく、日々、熱心に活動をしている。

センター職員の随想リレー
かたりべのひと言

森への誘い

海上の森は万博を機会に訪れる人が多くなりました。とびきりの観光スッポットがあるわけではないけれど、都会の近郊で気楽に四季折々楽しむことができる貴重な場所といえます。

万博が決定するまで海上の森を知らなかった私ですが、訪れてみると、子供のころ育った田舎の風景を思い出します。

センターの体験学習プログラムを見ると、年間の土日の約半分は何らかの教室、学習会が開かれています。都会の人が農業体験をしたり、子供たちが森の中で素材を探して工作をしたり、森林整備に関わったり、興味のある講座に参加していただくことができます。また今年度からは海上の森大学が開校し自然との関わりを探求し意識の高い、様々な活動を実践していく人材を育てていきます。来年も募集します。自然に興味のある方、応募しませんか。(M. K)

森のなかま

ドングリ

コナラ

アベマキ

海上の森では主に２種類のドングリを拾うことができます。

一つはコナラ（ブナ科）。細長く、長さ 1.5～2 センチ。かすかに縦に線が走っています。もう一つはアベマキ（ブナ科）。丸々としたドングリで、長さは 1.5～2.5 センチ。アベマキは、はかま（殻斗）が特徴的で、外巻きにした髪型のようです。

ドングリは数年に１回、たくさん実る年があります（いわゆる豊作年）。ドングリは秋から冬にかけての貴重な餌です。豊作年を数年おきにすることで、ドングリを食べる動物が増え過ぎてドングリが食べつくされないようにしている、と考えられています。